

令和元年度 第2回和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会
＜議事概要＞

【概要】

- ・日時：令和元年10月18日（金）10：00～11：30
- ・場所：和泉市コミュニティセンター1階中集会室
- ・欠席者：後藤委員、寺脇委員、仲野委員

【次第】

1. あいさつ
2. 審議事項
 - 1) コミュニティバス乗降調査の結果について
 - 2) 路線バス乗降等調査の結果について
3. 報告案件
 - 1) 和泉市地域公共交通総合マップの作成について
4. その他

【議事概要】

1. あいさつ

＜藤原委員長より、挨拶＞

本日は、お忙しい中、令和元年度第2回委員会にお集まりいただき、また、平素より本市の公共交通行政をはじめ市政各般に、ご理解、ご協力いただき感謝申し上げます。さて、先週末に過去最大級の台風19号による影響で、全国各地で甚大な被害に遭われた方々にはこの場をお借りしお悔やみ申し上げます。特に関東から東北地方にかけては、多くの死者、行方不明者に加え、堤防の決壊など泥水に沈んだ街、橋の一部が壊れたほか、線路内に大量の土砂が流入し公共交通機関にも大きな影響が出ている。本市では幸いにも被害を免れたが、開設した避難所を利用した市民も多く、台風の進路によっては他人事とは決して言えない。このような時期の開催となったが、本日はコミュニティバス乗降調査ならびに路線バス乗降等調査の結果について、多様な観点からご意見をいただき、ご審議いただきたい。

また、報告案件として、和泉市地域公共交通総合マップの作成に関してご報告させていただく。公共交通の活性化が図られるよう、ご審議のほど、お願い申し上げます。

＜事務局より、委員変更に伴う紹介＞

南海バス労働組合員の石野委員から才門委員に変更

＜議長に伊勢昇副委員長が推薦され、参加委員の承認を得た＞

2. 審議事項

- 1) コミュニティバス乗降調査の結果について
＜事務局より、資料1に基づき説明＞

伊勢議長：資料の説明について意見や質問はあるか。

浅井委員：山荘・和泉中央ルートで黒鳥山公園と東阪本町の乗降が目立っている。黒鳥山公園の場合、公園の利用あるいは近辺住民の利用のどちらが多いのか把握しているか。また、東阪本町の利用が多い理由とは。

事務局：公園の利用状況に関してはデータを持っていない。今後、地域との意見交換などを踏まえて把握をしていきたい。東阪本町に関しては、平成 29 年の調査でも同様の利用傾向を認め、府道バス停から離れた、住宅の張り付いた地域ということで利用者が多いものとする。

脇田委員：若い人か高齢の人かは分かるのか。

事務局：今回の調査では利用者の年齢層は掴めていない。平成 29 年度に市職員が車両に乗り込み調査した際には、高齢者の利用が大半であった。

伊勢議長：乗降調査結果の特徴について質問があったが、OD を取っているわけではなくバス停毎の乗降を把握しているもので、来年度に乗降調査を行うのであれば、どこから乗ってどこで降りているかをまず把握し、バスサービスを検討するうえで年齢や目的、乗継状況などを把握する必要もある。経費等の問題も出てくるが、他の調査で用いたビンゴ方式の用紙を参考にデータ提供するので検討願いたい。その他に質問や意見はあるか。

<特に意見なし>

伊勢議長：それでは他に意見が無いようなので、審議事項 1 について、資料の内容をご承認いただいたものとして、モビリティ・マネジメントを実施していくことでよろしいか。

<一同承認>

2) 路線バス乗降等調査の結果について

<事務局より、資料 2 に基づき説明>

伊勢議長：資料の説明について意見や質問はあるか。

小森委員：夏休み期間中の調査ということだが、通学定期の販売状況は。

事務局：調査時の定期利用の通学児童数は把握できていないが、参考として今年 6 月の通学時間帯の月利用者数は合計で 108 名であり、調査した中旬頃でみると朝 4 便の合計で 20 日木曜が 10 名、21 日が 8 名、22 日が 6 名、23 日が 1 名であった。

榎本委員：利用客が少ないと言うことは分かるが、この父鬼線を調査した目的は。

事務局：父鬼線は地域間を運行する補助路線であり毎年、南海バスより年間利用者数の報告はあるが、南部地域の利用状況については把握できていないため調査を行った。この路線は、皆さんご存知のことと思うが、平成 29 年度に南横山でデマンド交通実証運行を行っており、その実証運行を検証する中で既存路線バスと

の競合が議論された。朝夕の通勤、通学の時間帯の利用や日中の路線バスの利用実態を把握する必要がある、交通網形成計画に基づき調査を行っている。これから地域の移動を考えるワークショップに向けた基礎調査として位置付けている。

榎本委員：8月の夏休みの時期を選んでいるのはどういう意味か。

事務局：調整に時間を要したため、この時期の調査となった。朝夕の時間帯の通学利用の状況は把握できていないが、日中4便の利用状況に関してはデータ収集できた。地域で今後の交通を考えていくうえで次のステップへとつながるデータと考えている。

脇田委員：これから高齢者は免許証の返納でバスやタクシーを利用する時期が近づいてきている。高齢者のために公共交通利用の活性化につながる議論をされるのは非常に有り難い。我々の地域でも返納する者が増えてきて、行動範囲が限られてきて衰えてくる。我々もバスに乗ってみて、どこで乗ればどこに行くのか、どういったルートがよいのか考えてみたいと思っている。通院であれば病院からのバスがあるが、買物となるとそうはいかない。私も友だちを車に乗せてどういったルートや時間帯がよいのか、どうすれば利用できるのか我々も考えていきたい。

芥子委員：今後の予定に、次回の委員会に南部地域交通網の提案とあるが、弊社が受託させていただいているオレンジバスの方もワークショップの中に地域バス運営委員会と書いているので絡んでくると思っている。弊社も含めて南部地域交通網の骨子案を検討していくということでしょうか。

事務局：はい。

伊勢議長：他に意見はないか。

藤原委員長：路線バスの調査等について意見がでたが、確かに路線バスの維持について考えていくうえで時間帯は非常に重要な要素となるので、これだけの資料でワークショップを実施すると同様の意見は多数出てくる。教育委員会では通学バスの補助金があり、通学の利用人数は把握できるので、整合性をもって地元のワークショップに臨んでもらいたい。

<特に意見なし>

伊勢議長：それでは他に意見が無いようなので、審議事項2について、資料の内容をご承認いただけたものとして、乗降調査の意見を反映し、今後のバス調査を進めていく方向性でよろしいか。

<一同承認>

伊勢議長：審議事項は以上だが、確認事項等はないか。

事務局：先程、黒鳥山公園の利用状況に対する意見について補足する。山荘・和泉中央

ルート第1便の利用が多いことから、公園の利用者ではないかと推測する。

宮本委員：ワークショップの結果は、第3回委員会に間に合うのか。

事務局：間に合うように調整したい。

宮本委員：路線バスの利用数を見ると、ほとんどゼロに近いわけで、他に何かできないものか。以前にもこの地域では乗合タクシーで調査したことがあったのでは。

事務局：南横山校区デマンド交通実証運行の際にアンケートを実施している。

宮本委員：第1便の10時36分だと通学には使えないのでは。

事務局：こちらの便は日中を運行する路線バスで、通勤、通学の利用時間帯は路線維持運行バスの利用となる。日中4便については買い物などで利用する生活路線とみてもらいたい。

宮本委員：地域のワークショップの意見などを第3回で拝見したい。

3. 報告案件

1) 和泉市地域公共交通総合マップの作成について

<事務局より、別冊に基づき報告>

伊勢議長：資料の説明について意見や質問はあるか。

宮本委員：話が逸れるが、和泉中央駅前広場の改修はいつから。

事務局：今年度に設計業務を行っており、予定では令和2年度から3年度の2ヵ年で工事を行う。バス、タクシーの交通網を維持しながら工事を進めていく関係上、2ヶ年にまたがる計画となる。

居石委員：公共交通の検討を進めているが、実は私どもの鶴山台南校区は、隣の信太校区と鶴山台北校区の3つ校区で、車を使って高齢者の移動を地域でサポートしていく検討を始めていて、すでに6、7回くらい検討を行っている。他の地域でも同じような検討が増えてくると思う。公共交通機関の強みと地域の実情を上手く整合性をとらないと、いずれは市の方でもカバーすることとなり、考えていること、やることが無駄になるかもしれない。利用者の目的を視野に入れて今後子ども、大人、高齢者を切り口に総合的に検討を続けてもらいたい。

事務局：高齢介護室と取り組み始めている施策かと思うが、その件については高齢介護室と連携を密にしているところで、具体的なかたちはこれからだと思っている。あくまでも我々の施策は公共交通の部分となり、できればお互い生かしあいながら共存できればと思っている。

伊勢議長：バスマップに関しては、事前に意見聴取している。実際のマップを見て地域の委員や、交通事業者の委員で意見や感想はないか。

脇田委員：ワークショップは、校区単位で開催するのか。

事務局：はい。南横山、横山それぞれの校区の代表者で実施する予定である。

脇田委員：南部地域の件は分かったが、各校区での開催は決まっているのか。

事務局：コミュニティバス沿線の校区については、地域福祉会議の予定を担当課と連携して日程調整を行い、次回の委員会で示したいと考えている。

脇田委員：単位会の会長にワークショップ開催の連絡はするのか。

事務局：公共交通の担当では協議の場を作れていないので、福祉総務課が共同している社会福祉協議会の協議の場を活用したいと考えている。協議の場は校区毎に毎年1回程度、地域の課題を出し合って解決に向けた意見交換している。お出かけ時の移動手段の課題も地域より挙げられている。各校区について老人クラブの方がその協議の場への参加の有無を把握していない。代表の方と連携していくうえで、周知については調整したい。

脇田委員：社会福祉協議会を通じて連絡するということか。

事務局：調整できていないので確定ではない。今のイメージでは協議会を通じての連絡を考えている。

脇田委員：老人クラブも協議会の一員になっていると思うが、各単位会に連絡できるかが大事になる。実際に利用するのが高齢者となるので周知徹底を図りたい。

小森委員：かなり大きいマップだが、ホームページからダウンロードできるのか。

事務局：現在は公開していないが、12月広報紙折り込みによる全戸配布のタイミングに併せてホームページに公開を予定している。

小森委員：ダウンロードできるサイズは。

事務局：1枚ずつA4サイズで考えている。

浅井委員：計画や目標達成に向けた事業の進め方など、マスタープランを示した中で課題を解決していくようにすれば議論しやすいと思う。また、考え方そのものについて共通認識をもって審議を進めていけるのではないか。

事務局：昨年度に本委員会で地域公共交通網形成計画を5年の計画で策定し、第1回委員会の中で説明しているが、68頁に目標として、利用者数や市民満足度の数値目標を掲げている。これに紐付いた施策事業として、70頁に目標達成するために行う事業を3つの基本方針に分けて、個別の事業目標を示している。マップ作成も事業のうちの一つになる。また、年度初めの委員会で目標の達成状況を報告する予定である。

宮本委員：連合会では毎年メンバーが替わり、計画を持っていない方には渡すようにしてもらいたい。

事務局：第1回委員会で製本した計画を配っているが、無いようであれば個別で対応する。

5. その他

事務局：本日、机上配布した資料2点について報告する。バスの乗り方室&交通安全教室実施内容について、第1回委員会で報告しているものだが、10月15日(火)に光明台北小学校で実施し、その教室風景を掲載したものである。次に、和泉府中駅前の図面について、地域公共交通網形成計画の中で自転車走行空間の確保を事業に上げており、今年度、試験実施として和泉府中駅前北通り線の工事に併せて、駅周辺道路に青色の矢羽を路面に表示する。次回の委員会で路面表示した駅前の状況を報告したい。また、効果検証として近隣駐輪場の利用者を

中心にヒアリング調査を行う予定である。

寺元委員：現在、準備を進めている高齢者おでかけ支援事業の進捗について報告する。

市長公約でもある本事業は、令和2年度の早期に事業化するために準備を行っている。内容がかたまっていないため資料の提供はできないが、現在の状況を報告する。当初、堺市のおでかけ応援バス制度が有名であり、同じ方式がとれないものか話もあった。堺市では大掛かりな費用をかけて事業化したものであり、令和2年度までの本市の実施を考えると難しく、現在、公共交通事業者と話し合いの途中ではあるが、チケット方式で高齢者に配り、公共交通利用時の助成を検討している。対象年齢は75歳以上を考えており、高齢者の介護を中心とした支援を担うことから、一つは、おでかけを支援することで介護予防につながって少しでも元気になること、もう一つは、公共交通の活性化に少しでも一助となることを目的に制度を設計している。介護保険の認定を受けたいと言う市民が増えてくる年齢は75歳からが多く、もっとも多い年齢は85歳を超えてからとなる。75歳位から徐々に増加する統計の結果もあり、その年齢で支援する。年齢以外の条件は付けずに広く75歳以上の方にチケットを配り、公共交通の活性化につながるよう制度設計を行っている。助成額については、財政当局との交渉もあり現段階では言えないが、手本にする河内長野市が同様の方式をとっている。それを参考として本市に合った方法に工夫し交渉しているところである。なお、公共交通の分野の応援となることから、道路河川室と連携して進めている。その他で、公共交通以外の住民活動の部分で高齢者のおでかけ支援ができないかどうか鶴山台で開催される会議に市職員も参加し、動向をみて行政でできることを考えている。

事務局：本日他の公務と重なり欠席となったいずみアピール課から本委員会で報告を予定していた内容を預かっているので事務局が代わって報告する。現在、いずみアピール課では和泉市観光アクションプランを策定中である。その中で交通アクセスづくりとして、現在、春秋に限定し3月、4月、10月、11月の日祝のみ、めぐ~の車両を利用して和泉シティプラザを軸に公共施設や観光施設を巡回するバスを運行している。令和2年度よりルートを見直し、観光に特化した観光周遊バスとして施策を展開していきたいと考えている。南海バスと調整中であり詳細までは決まっていない。次回の委員会で詳細を報告したい。

－以上－

【会議の様子】

